

## 日本人高齢者において腸内細菌の組成と認知症が関連する可能性

腸内細菌叢の組成の変化が健康状態に様々な影響を及ぼすことが知られており、認知症予防にも役立つ可能性があるが、その関連については明らかにはされていない。そこで本研究では、腸内細菌叢の組成と認知症との関連について検討した。

物忘れ外来を訪れた患者から便検体を採取し、分析した結果、認知症患者では、非認知症患者に比べて「バクテロイデス」という細菌が少なく、「その他のバクテリア」とされた種類の特定できない細菌が多かった。また多変量分析によると、「バクテロイデス」と「その他のバクテリア」は認知症との強い関連がみられた。

したがって、今回の結果から認知症患者と認知症のない患者では、腸内細菌叢の組成に違いがあり、腸内細菌叢の変化と認知症に関連があることが示唆された。今後、この背景にあるメカニズムを解明するため、さらなる研究が必要である。

出典 : Scientific Reports. 2019 Jan 30; 9(1): 1008.